

[成果情報名] 温暖化に対応した茶樹の中切り更新時期と積算温度を活用した再生芽整枝時期

[要約] 中山間地域の「やぶきた」茶園では、5月下旬に中切り更新し、日平均気温の積算温度が1600日度に達する8月第1半旬で再生芽の整枝をすると、その後の生育が良く、秋整枝後の芽数が多く摘採面密度が優れる。

[キーワード] チャ、中切り、再生芽、積算温度

[担当] 総合農林試験場・東彼杵茶業支場

[連絡先] 電話 0957-46-0033

[区分] 茶部門

[分類] 指導

[背景・ねらい]

茶樹の樹勢と樹形を維持し高品質茶を生産するためには、5年毎に中切り更新を行う必要がある。近年の茶芽の生育は、温暖化の影響により早まっており、茶摘採が早期に終了すると枝条更新の作業も早まる傾向にある。そのため、秋芽の生育期間が長く枝条が過繁茂となり、芽数を確保する秋整枝位置の判断が難しく樹高が上がる傾向で、翌年一番茶の生産量・品質に影響が見られる。そこで、最近の気温下における適切な中切り更新時期及び再生芽整枝時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 中山間地域の「やぶきた」茶園では、5月下旬(25日)に中切り更新し、積算温度1600日度(8/3~4)で再生芽の整枝をすると、慣行区と比較してその後の生育が良く、秋整枝後の有効芽数が多く摘採面密度が優れる(表1、表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 積算温度は、日平均気温の積算である。
2. 東彼杵茶業支場内圃場(標高400m、玄武岩質細粒黄色土)における調査結果であり、中山間地域とは、5月上旬に一番茶最盛期を迎える地域を想定する。
3. 供試茶樹は、樹齢31年生(試験開始時)の「やぶきた」で、年間窒素施用量は45kg/10aである。
4. 5月下旬に中切り更新し積算温度1600日度で再生芽の整枝をした区は、平成18年調査分は一番茶収量が最も多かったが、平成19年調査分では2月の暖冬後に寒害を受け、試験区全体において一番茶収量が少なく、収量結果の逆転も見られた(表3)。秋期の生育結果を翌年収量に繋げるために、冬季の防寒・防霜対策は十分注意する。

[具体的データ]

試験区の構成

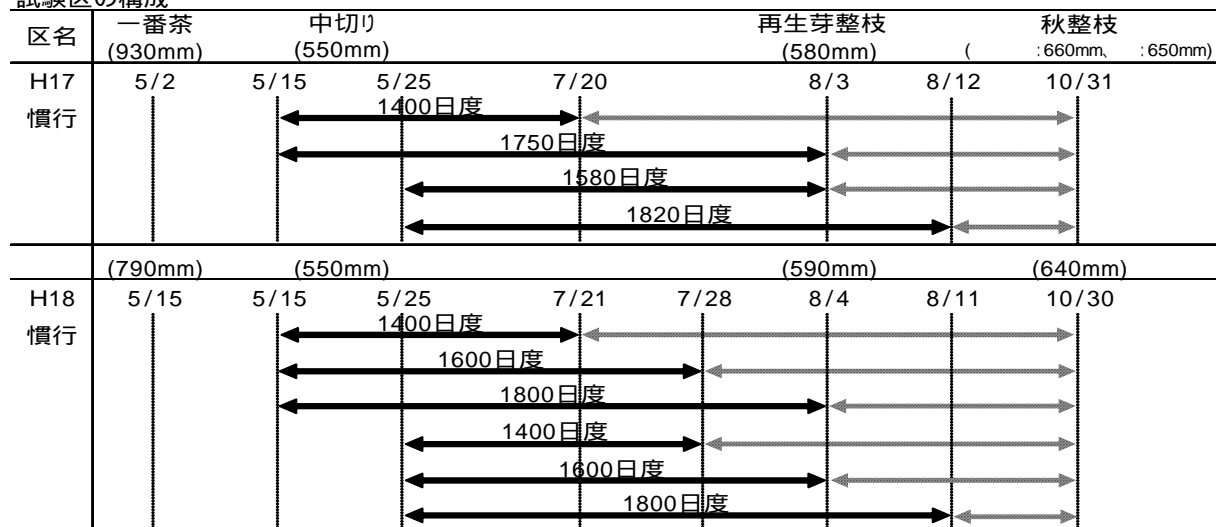


表1 整枝量(kg/10a)

区名	再生芽 整枝量	秋整枝量	合計	
H17	慣行	381.7	450.9	832.6
		727.0	149.3	876.3
		671.0	189.1	860.1
		750.7	149.9	900.6
H18	慣行	750.4	298.6	1049.0
		922.4	294.2	1216.6
		861.4	219.8	1081.2
		670.4	274.2	944.6
		828.1	309.7	1137.8
	884.7	232.0	1116.7	

表2 秋整枝後の樹体調査

区名	葉長 (cm)	葉層 (cm)	芽数 (本/m ²)	
H17	慣行	7.1	10.4	550.0
		6.9	11.6	637.5
		6.9	12.8	792.5
		6.6	10.0	680.0
H18	慣行	6.2	12.5	837.5
		5.9	10.8	1062.5
		6.2	11.2	937.5
		6.1	12.3	1237.5
		6.4	12.3	1362.5
	5.8	13.5	1000.0	

表3 中切り翌年の生葉収量(kg/10a)及び一番茶摘芽調査結果

区名	一番茶	二番茶	三番茶	年間収量	芽長 (cm)	葉数 (枚)	出開度 (%)	百芽重 (g)	芽数 (本/m ²)	
H18	慣行	795.1	243.3	245.7	1284.2	6.9	3.3	75.0	98.3	777.0
		715.4	214.2	233.2	1162.8	7.6	3.4	66.6	111.2	677.1
		846.4	271.1	305.5	1422.9	7.8	3.4	58.4	120.5	727.1
		526.9	233.2	343.1	1103.3	7.1	3.0	45.4	101.6	558.3
H19	慣行	529.2	684.8	481.0	1695.0	6.1	3.2	63.3	48.7	1416.3
		509.1	755.7	609.4	1874.2	5.5	3.1	59.1	48.5	1310.7
		467.5	718.5	454.6	1640.6	5.9	3.0	50.1	45.8	1330.2
		444.0	742.6	495.2	1681.8	5.8	2.6	48.1	44.4	1253.8
		413.7	681.6	453.4	1548.7	5.4	2.9	39.4	42.5	1278.8
	446.9	726.9	423.8	1597.6	6.3	3.1	44.0	43.7	1233.0	

[その他]

研究課題名: 気象と生育予測による茶園管理技術とクワシロカイガラムシ防除法の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2004 ~ 2007 年度

研究担当者: 山口泰弘、本多利仁、森川亮一